

図書館だより



2020年

秀明大学学校教師学部附属秀明八千代中学校・高等学校 図書館

閲覧席が少なく不便な思いをさせていただきましたが、先日机上に飛沫飛散防止パネルが設置されたため多くの方が座れるようになりました。まだ元通りの数にはなりません。読書や勉強で活用してもらえれば嬉しいです。引き続き、消毒とソーシャルディスタンスの心がけもお願いします。

新しい本が入りました

- ★『「2020」後 新しい日本の話をしよう』河合雅司/講談社
- ★『コロナの時代の僕ら』パオロ・ジョルダーノ/早川書房
- ★『「繊細さん」の本 「気がつきすぎて疲れる」が驚くほどなくなる』武田友紀/飛鳥新社
- ★『「死」とは何か? イェール大学で23年連続の人気講義』シェリー・ケーガン/文響社
- 『その話、諸説あります。』日経ナショナルジオグラフィック
- 『あなたのまわりの怒っている人図鑑 事例に学ぶアンガーマネジメント』安藤俊介/飛鳥新社
- 『謎解き日本列島 全国各地の地理・歴史文化のナゾに迫る!』宇田川勝司/ベレ出版
- 『胸キュン?! 日本史』堀口茉純/集英社
- 『国籍の?がわかる本 日本人ってだれのこと?外国人ってだれのこと?』木下理仁/太郎次郎エディタス
- 『ネコもよう図鑑 色や柄がちがうのはニャンで?』浅羽宏/科学同人
- 『お笑い芸人と学ぶ13歳からのSDGs』たかまつなな/くもん出版
- 『自分だけの物語で逆転合格する総合・推薦入試志望理由書&面接』竹内麦村/学研プラス
- 『くらべる骨格動物図鑑 ウマは1本の指で立っている!』川崎悟司/新星出版社
- 『寝ないとドジるよ、アブナイよ!』神山潤/芽ばえ社
- 『吃音 伝えられないもどかしさ』近藤雄生/新潮社
- 『ミサンガ かわいいパリのハンドメイド』フロランス・ペロー/ほるぷ出版
- 『13歳からの環境問題 「気候正義」の声を上げ始めた若者たち』志葉玲/かがわ出版
- 『あなたのペットが迷子になっても ペット探偵が出会った人と動物の愛の物語』遠藤匡王/緑書房
- 『異世界に一番近い場所 ファンタジー系ゲーム・アニメ・ラノベのような現実の景色』
清水大輔/パイインターナショナル
- 『表現スポーツのコンディショニング 新体操・フィギュアスケート・バレエ編』
有吉与志恵/ベースボールマガジン社
- 『「鬼滅の刃」流強い自分の作り方』井島由佳/アスコム
- 『パンダでおぼえることわざ慣用句 大人も子どもも一生役立つ』学研プラス
- 『読解力を身につける』村上慎一/岩波書店
- 『僕の神さま』芦沢央/KADOKAWA
- 『昨日星を探した言い訳』河野裕/KADOKAWA
- 『赤ずきん、旅の途中で死体と出会う。』青柳碧人/双葉社



他にもたくさん本が入りました。リクエストはいつでも受け付けています。



もうすぐ読書週間です



「読書の力によって、平和な文化国家を作ろう」という決意のもと1947年から始まった読書週間は今年で74回目です。今回の標語は「ラストページまで駆け抜けて」。そして、ポスターはこちらです。

応募総数405点の中から選ばれたのは、イラストレーターのなかいかおりさんの作品でした。以下、作者のなかいかさんの言葉です。

「思うように旅ができない世の中になってしまいました。本は、未知なる場所へ連れて行ってくれる、いちばん身近な移動手段かもしれません。今年もいつもと変わらず、素敵な本との出会いがありますように。」

日常が大きく変わってしまったこの一年。でも本は変わらず身近に存在しています。何か楽しいことはないかな…と思ったら、本を手にとってみるのもひとつです。日常から少し離れて気分転換となり、意外と遠い所へ行くことができるかもしれません。

主催の読書推進運動協議会が若い人に贈る読書のすすめ、として本を紹介していますので、本選びの参考にしてください。

<http://www.dokusyo.or.jp/jigyo/wakaihito/2020wakaihito.pdf>



秋にちなんだ本を…



太陽の照り付ける季節が終わり、秋が深まってきました。気候がよく、何をしてもうってつけの時期として〇〇の秋と表されます。その反面、夕暮れが早く肌寒くなってくるため、物思いにふけりがち、つまり考え事をしやすい季節ともいわれます。

自分のことや他人のことを考えるのは大切ですが、思い悩むほど考え込んでしまうのなら、人に話したり、本を読んだりして新たな考え方を知るのもおすすめです。今回は、ちょっと視点を変えたり、違う考え方をするための手助けになるような本を紹介します。



『向こう三軒両隣り』
田中敏博/復刊ドットコム

こんな時代だからこそ求められる考え方

建築家の作者が、子どもたちに向けて書いた家の本。

「自分だけでなく、みんなのことも考えながら/一軒だけでなく、街並みのことも考えながら/今日だけでなく、未来のことも考えながら、家のことを考える」という

「向こう三軒両隣り」の気持ちを伝えています。



『友だち幻想』
菅野仁/筑摩書房

自分を見つめなおすために人の考え方を知ろう

衝撃的なタイトルです。友だちは何よりも大切。でも、なぜこんなに友だちとの関係で傷つき悩むのだろう。人と人の距離感覚をみがいて、上手に“つながり”を築けるようになるための本。

難しそうな本だ、と思わないで！きっとこれから生きていくヒントになると思います。



『カーネーション』
いとうみく/くもん出版

来館した中学生に薦めてもらった衝撃作

母に愛されたいと思っている娘。娘を愛したいと思っている母。気持ちは同じはずなのに、二人はよい関係を築けません。それぞれの視点から語られる思いは、読むのも辛いほどです。家族といえどうまくいくことばかりではありません。でも解決方法と適切な距離はあるはず。